



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(111) ヒゲトラフクラゲ(仮称)

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(111) ヒゲトラフクラゲ(仮称). 紀伊民報 2014

ISSUE DATE:

2014-02-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184458>

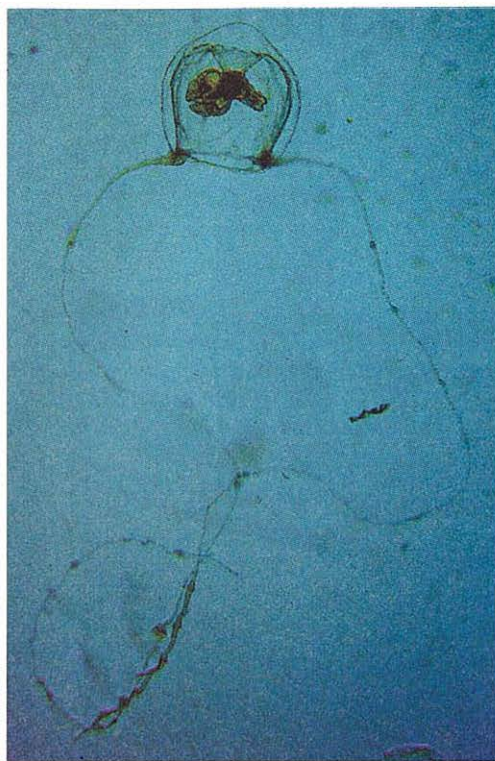
RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2014年(平成26年)2月12日 水曜日 (10)

ヒゲトラフクラゲ(仮称)



△
触手にひげの
あるヒゲトラ
フクラゲ (河
村真理子博士
撮影)

(京都大学准教授)

なお、若い世代で
あるポリプの存在は
コツブクラゲと同様
に、未知のままであ
る。

まっている。

個体は薬品固定後年月が長く
たっているのに、残念ながら
しまの色の特徴が消失してし
まっている。

コツブクラゲと一見して形
ある。

ヒゲトラフクラゲ(仮称)
は、新種の可能性が大きいヒ
ドロクラゲの一種だ。今回、
世界で初めて紹介する。

京都大学瀬戸臨海実験所に
勤務する河村真理子さんが、
田辺湾の奥で、プランクトン

久保田 信

111



ネットびきで以前に採集した
が、その後さっぱり採れない
ままである。

河村さんは採集した後、少
しの間実験室で飼育して、無
性生殖を観察した。その際に
薬品固定していたものを、ご

態が異なっている点があ
かある。和名の元になっ
ているのがひげである。ある間隔
をおいて、たくさん飼育する
の。画像ではこぶのように見
える。

く最近になって撮影したもの
が今回の画像である。この個体
は傘径0.5ミで、胃の部分に
クラゲ芽を複数持っている。
このような特徴は近縁種の
コツブクラゲと同じで、クラゲ
からクラゲを無性的につくっ
て自分のコピーを増やすので
ある。

ひげがまとまって生えて
いる部分は、生きている時には
色が着いているのも大きな特
徴である。4本の触手すべて
にしま模様がよく見える。和
名のように虎斑(とらふ)模
様なのである。ただし、この